令和7年度(2025年度)

カリキュラム編成書

建築大工技能科

学科概要書

建築大工技能科

育成人材像

- ① 木材を様々な用途に合わせて加工する技術を身に付け、木造建築の現場での大工技能作業ができるようになる。
- ② 異なる構造形式を見分ける知識を身に付け、リフォームの現場でより良い工法を選び工事ができるようになる。
- ③ 関連職種の作業内容を理解することで、建築工事現場での工事全体の進捗状況がわかるようになる。
- ④ 設計図書を正しく読み取る知識を身に付け、設計者の意図を理解し、現場施工が円滑にできるようになる。
- ⑤ 上記の事項を理解することで建築現場での施工のみならず、図面の作成や現場で設計通りに工事が進んでいるかどうかの監督業務ができるようになる。

身に付ける能力

- ① 大工作業の基本である差し金を使いこなす「規矩術」を身に付けることで、刻み作業(手刻み)に対応できる。
- ② 新築工事、改修工事を問わず、様々な条件に対応できる「大工技能」を身に付けることで、建物用途、使用目的に合った工事に対応できる。
- ③ 流通している建築材料(資材)の長所・短所を理解し正しい使用法を身に付けることで、丈夫で長持ちする建物を送り出すことができる。
- ④ 建築に関する法規を理解することで、違法建築物の施工を防ぐことができる。
- ⑤ 木造に限らず、鉄骨造、鉄筋コンクリート造など、構造種別ごとに正しい知識を身に付け、幅広い業務に携わることができる。
- ⑥ 建築に関する様々な知識を身に付けることで、建築現場にて求められている、各種免許、技能講習、建築大工技能士等の資格取得に対応することができる。

教育課程編成方針

- ① 豊かな教養と社会常識、建築業界就職に必要な知識を身に付けるために、「就職対策」を各年次に配置する。
- ② 1年次は、建築大工業界における基礎的知識(規矩術)、電動工具の基本的操作技術、建築士試験に必要な製図力、建築工学を身に付けるための専門科目を配置する。
- ③ 2年次は、建築大工業界で即戦力として活躍できる実践力を身に付けるための専門科目として、1年次に身に付けた、基礎的知識、工具の操作法の応用力を身に付けるための専門科目を配置する。
- ④ 2年次は、業界内における利用率が高いCADソフトを使いこなし、プレゼンテーション力を高める技術を身に付けるための専門科目を配置する。
- ⑤ 1・2年次通年で企業と連携した実習科目を配置する。

授業実施の方針

- ① キャリア教育科目である「就職対策」はオンラインコンテンツを利用した一般常識の学修、履歴書・エントリーシートの記述指導、面接訓練等の実践トレーニング、業界企業研究とする。
- ② 建築工学分野における知識修得を目的とした科目は講義形式で行うことを基本とし、知識の定着のための演習はグループワーク形式で行う。
- ③ 建築大工技能を身に付けるための専門科目は、実習形式で行う。年間1棟の模擬家屋を建築し、建築大工業界で即戦力として活躍できる実践力を身に付ける。
- ④ 実践力を身に付けるために実施する企業と連携した実習授業は、1・2年を通じて規矩術、大工技能、施工管理等の作業を実務レベルに近い状況で実施する。

目標資格

- ・二級建築士(卒業後、受験資格が得られる)
- ・木造建築士(卒業後、受験資格が得られる)
- •2級建築施工管理技術検定1次
- •建築大工技能十
- •各種安全講習修得

目指す職種

- •建築大工技能職
- •建築関連技能職
- •建築施工管理技術者

企業連携実習

若手大工技術者の育成のため設立された「NOP法人匠の右腕」より講師の派遣を受け技能実習を行っている。□

業界や企業との提携/外部イベント/コンテスト等

業界理解のため現場見学、植林地・製材所の見学

業界で必要となる安全講習や技能検定を学内取得し、即実践で活躍できる体制を構築する

科目関連図

学 科 名 **建築大工技能科** コ ー ス 名

科目 区分	1 年	三次	24	年 次	3	年次	4年	次
区分	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
一般科目		せ 常識 対策 I	就職対策Ⅱ					
	建築基コンピュ	能実習 I E礎製図 一夕基礎	建築記	能実習Ⅱ				
専門科目	建築一	一般構造	建築生産	建築法規				

建築大工技能科 2年

学	1	科	名	建築大工技能科						
コ	_	ス	名							
科	-	<u> </u>	名	就職対策Ⅱ 科 目 分 類 独自 / 共通						
履	修	年	次	2 履修学期 前期 授業形態 講義 実習/演習						
コ・	マ紫	数 /	週	2 総授業コマ数 38 単 位 数 2						
担	当	教	員	氏家 真史 実 務 経 験						
目	的。	/概	要	・自分がどのような仕事をしたいのか、どのような業種に進みたいのか、などについて絞込みを行う。・希望する企業から内定を獲得するために、より実践的に、就職試験に即した内容について学習する。・社会人として身につけておきたいコミュニケーション能力、マナー、ルール、一般常識等について学習する。						
到	達	目	標	・1年次の就職対策 I、そして就職対策 II の授業内容について理解・実践し、就職活動及 び就職試験に十分生かし、希望する企業から内定を獲得する。						
目	標	資	格	特になし						
前	提	知	識	・就職対策 I が履修済みであること(1年次)。						
授	業	計	画	コマ数 授業内容 1 ・オリエンテーション 19 ・就職センターを活用しての情報収集や受験企業の選定等や担当者との面談 3 ・一般常識問題の練習 3 ・履歴書、エントリーシート等の作成練習 3 ・模擬面接などを通しての面接練習 3 ・就職活動における言葉遣いや態度、基本動作等についての実践練習 3 ・グループディスカッション 3 ・個別面談						
			計	38						
使	用	教	材	・面接対策&ビジネスマナー + DVD・自己分析ワークシート・職業紹介DVD						
履注	修	上	の意	・就職活動は自分自身のために行う活動である。自主的かつ積極的に行動すること。						
成の		評 方	価法	・課題内容・提出状況:80% ・就職活動・授業に取り組む姿勢:20% 等により総合的に評価する。						

学	禾	斗	名	建築大工技能科						
コ	ı	ス	名							
科	F	1	名	建築技能実習Ⅱ(企業連携科目) 科目分類 独自/共通						
履	修	年	次	2 履修学期 通年 授業形態 講義 実習 演習						
コ、	マ数	ζ/	週	8 総授業コマ数 304 単 位 数 16						
担	当	教	員	氏家 真史 栗駒建業(高橋渉) 実 務 経 験 工務店にて、多くの木造建築物の設計・管理・大工工事を経験。 技能五輪全国大会建築大工部門出場経験を活かし、実践的な教育 を行う。						
目	的/	/概	要	・大工技術の基本である「道具」・「規矩術」・「技能法」を模擬家屋作成の実習を通して修得することを目的とする。 ・模擬家屋は木造2階建て切妻と寄棟の屋根、大壁造の内装で作成する。 ・実習を通して、木造建築物の構造、施工方法、構造関連法規を理解する。 ・実習を通して、高所作業に伴う安全な作業と足場解体撤去作業を理解し、作業中の安全について理解する。						
到	達	目	標	 ・木工手道具の刃研ぎや仕込みができるようになる。 ・規矩術を理解し、寄棟屋根の墨付けができるようになる。 ・電動道具を使用した加工ができるようになる。 ・建方の手順を理解し、高所での安全な作業が行えるようになる。 ・建築金物、ビス、釘等の仕様を理解し、構造耐力上安全な構造物の工作ができるようになる。 ・建具取付工事、断熱気密工事、大壁造の内装工事、壁装クロス工事、解体工事ができるようになる。 						
目	標	資	格	木造建築物の組立て等作業主任者						
前	提	知	識	建築技能実習Iで修得した知識、技能						
授	業	計	画	コマ数授業内容100構造軸組(柱・梁・土台)の墨付け、刻み4高所作業の安全講習(企業連携、㈱大和通商)40構造軸組(柱・梁・土台)の建て方50外部大工工事(間柱、筋違、サッシ、外部合板、防水シート、軒天仕上げ)32内部大工工事(天井、壁、断熱工事、造作工事)30内部仕上げ工事(窓、入り口枠、玄関框、フロア張り、壁、巾木、廻り縁仕上げ)8内装仕上げ講習(企業連携、侑栗駒建業)242級建築大工技能士受験対策16仮設足場の設置(企業連携、フットゲート株式会社)						
			計	304						
使	用	教	材	木工技術を学ぶ I 、II (市谷出版社)・図解で学ぶ 建築大工技能検定実技試験						
履注	修	上	の意	電動工具や木工機械は、一瞬にして重大事故が発生する危険性を有しているため、担当講師の指示に従うのは当 然のこと、整理整頓や掃除などについても徹底する。						
成の	績力		価法	企業連携授業((有栗駒建業) 実習の評価70% 基本工具の習熟度や、仕口継手の加工、道具の手入れ状況等の試験を5段階評価で毎月行う。 模擬家屋担当箇所の技術評価を学期毎に行う。 授業に取り組む姿勢30% 安全管理に重点を置いた評価(以前は1日毎に100点法で毎回行う)については出席率、授業に取り組む姿勢などを中心に総合的に評価する。						

作成日:2025年4月1日

学	和	+	名	建築大工技能科						
=	<u> </u>	ス	名							
科	E		名	建築CAD製図			科	目 分	類	独自/ 共通
履	修	年	次	2	履修学期	通年	授	業形	態	講義、実習〉演習
コマ	マ数	(/	週	前期2、後期4	総授業コマ数	114	単	位	数	6
担	当	教	員	佐藤 有紀	実務経験		構築	し多くの	建多	と経験。CAD黎明期。 多物を設計した経験を
目自	的/	⁄ 概	要			作成方法を修得する。 やスライドにまとめ発え			ゼン・	テーション方法を学
到	達	目	標	・一般図のトレースを通し、CADの基本操作の修得と、建築製図法を理解する。・建築物の写真撮影法と、コンピュータ上での写真加工方法を習得する。・習得した技術を駆使し、住宅などの建築作品を調査研究し、他の科目と連携しながら、図面、写真を作成し、プレゼンテーションを行う。						
目	標	資	格	特になし						
前	提	知	識	建築基礎製図で コンピュータ基礎						
授	業	計	画	2マ数 授業内容 18 CADの基本操作 32 木造住宅の平面図作成 8 木造住宅の断面図作成 8 木造住宅の面図作成 8 木造住宅の立面図作成 8 木造住宅の伏図・軸組図作成 18 プレゼンテーションボードの作成 18 スライドの作成と発表 4 演習						

履修上の・建築図面が読み取れ、CAD設計で実際に建築するものと整合性が取れるようになり、CAD操作に習熟注

・する。

成績評価 の 方 法 授業に取り組む姿勢30%

実習点70%(提出点40%+課題点60%)

提出点:課題の完成提出及び途中提出の状況課題点:課題の完成レベルと制作の工夫

学	利	斗	名	建築大工技能科						
コ	ī	ス	名							
科	ļ]	名	建築設計製図 科 目 分 類 独自 / 共通						
履	修	年	次	2 履修学期 通年 授業形態 講義 実習 演習						
コ	マ券	女 /	週	前期3、後期2 総授業コマ数 95 単 位 数 5						
担	当	教	員	建築設計事務所にて、設計監理を経験。多くの建築物を設計した経験と 氏家 真史 実 務 経 験 建築士製図試験対策の指導経験を活かし、手書き製図の実践的な教育を行う。						
目	的/	/椒	要	木造2階建の専用住宅の設計課題を通して、住宅の設計手法と設計図の作成手法を、住宅計画の理論 と連動しながら実践的に修得する。						
到	達	目	標	・家族構成や要求諸室、敷地条件等の検討事項を理解し、設計条件の整理方法を習得する。 ・エスキースの手順と検討事項を理解し、プランニング方法を習得する。 ・木造在来工法の構造を理解し、耐力壁、構造部材の断面形状の決定方法を習得する。 ・関係法令を理解し、法規チェック方法を習得する。 ・材料や屋根形状のバリエーションを理解し、魅力的な外部空間の設計手法を習得する。 ・計画した住宅の設計図を作成する。 ・2級建築大工技能士原寸図の作成手順を習得する。						
目	標	資	格	二級建築士•木造建築士						
前	提	知	識	建築計画、建築基礎製図の履修						
				コマ数 授業内容						
授	業	計	画	5 課題条件の検討とエスキース手順・ゾーニングとエスキース 9 構造と法規、立面の検討 9 外観と外構の検討 9 配置平面図作成						
			計	95						
使	用	教	材	超入門 建築製図						
履注	修	上	の意	・技能実習で実際に建築するものと、建築図面の整合性が取れるようになる。						
成の		評	価法	授業に取り組む姿勢30% 実習点70%(提出点40%+課題点60%) 提出点:課題の完成提出及び途中提出の状況 課題点:課題の完成レベルと制作の工夫 などを中心に総合的に評価する。						

学	乖	斗	名	建築大工技能科					
コ	_	ス	名						
科	F	1	名	住宅計画 科 目 分 類 独自 / 共通					
履	修	年	次	2 履修学期 通年 授業形態 講義 実習/演習					
コ・	マ数	女 /	週	前期1、後期2 総授業コマ数 57 単 位 数 3					
担	当	教	員	氏家 真史 伊藤 功啓 実 務 経 験					
目	的/	/概	要	住宅計画の留意点を理解し、計画・構造・法規・意匠と調和のとれた設計手法を学ぶ。					
到	達	目	標	 ・配置、平面計画においては動線計画、ゾーニング計画の手法を理解する。 ・断面、立面計画では標準的な高さ寸法の根拠を理解し、全体として構成する手法を習得する。 ・構造計画では、在来木造、鉄筋コンクリート造の構造特性を理解し、計画上の制約を習得する。 ・設備計画では快適な住環境を実現する住宅設備の概要を理解する。 ・住宅計画における法規上の留意点を理解する。 					
目	標	資	格	二級建築士•木造建築士					
前	提	知	識	建築計画I、建築法規の履修の基本事項					
				コマ数 授業内容					
授	業	計	計	9 配置計画 15 平面計画 9 断面計画 6 立面計画 5 構造計画 3 設備計画 3 法規上の留意点 6 演習 1 考査 57					
使	用	教	材	住宅の計画学入門(鹿島出版会)					
履注	修	上	の意	・建築の設計者の意図やディテールを理解し、住宅建築に役立てられるようにする。					
成の	績力	評	価法	授業に取り組む姿勢30% 考査点50%(半期期末考査、場合により中間考査も実施) 課題点20%(学習項目毎の小テスト、課題レポート他) などを中心に総合的に評価する。					

学	禾	斗	名	建築大工技能科					
7	_	ス	名						
科	F	1	名	建築材料 科 目 分 類 独自/ 共通					
履	修	年	次	2 履修学期 通年 授業形態講義 実習/演習					
コ・	マ数	女 /	週	1 総授業コマ数 38 単 位 数 2					
担	当	教	員	伊藤 功啓 実務経験					
目	的/	/概	要	木材を始めとする構造材料と各種仕上げ材料のそれぞれの種類、性質、使用方法について学ぶ。					
到	達	目	標	・建築物に用いられる様々な建築材料を建築の骨組に用いられる構造材料と、外装・内装に用いられる仕上材料などに大別して、各種材料の特性や使用方法などについて理解する。					
目	標	資	格	二級建築士、2級施工管理技士					
前	提	知	識	特になし					
授	業	計	画	コマ数授業内容8建築材料の概要12構造材料 (木材、コンクリート、鋼材)12仕上材料 (ステンレス鋼、アルミニウム合金材、タイル・れんが、ガラス・石、 左官・ボード・シート材料、プラスチック・塗料・接着剤、防水材料、建具、その他)4演習2考査					
			計	38					
使	用	教	材	ベーシック 建築材料(彰国社) ビジュアルハンドブック 必携建築資料(日本建築学会)					
履注	修	上	の意	・実際に使用する材料と試験問題に必要な基礎知識を習得する					
成の		評	価法	授業に取り組む姿勢30% 考査点50%(半期期末試験、場合により中間考査も実施) 課題点20%(学習項目毎の小テスト、課題レポート他) などを中心に総合的に評価する。					

学 科 名	建築大工技能科					
コース名						
科目名	建築生産		科 目 分 類 (独自)/ 共通			
履修年次	2 履修生	芝 期 前期	授業形態講義/実習/演習			
コマ数/週	1 総授業=	マ数 19	単 位 数 1			
担当教員	伊藤 功啓 実 務 糸	圣験				
目的/概要	木造建築物の施工方法と、多	全衛生に関する知識を学ぶ	., .,			
到達目標	・施工管理の種類 工程・品質・安全等施工管 ・各施工方法	業務等に関して基礎を学る 理に必要な基礎を学ぶ。 ら、施工方法について学ぶ。				
目標資格	二級建築士、2級施工管理技	二級建築士、2級施工管理技士				
前提知識	建築一般構造の履修の基本	建築一般構造の履修の基本事項				
授 業 計 画	2 鉄筋工事、型枠工事、コ 6 木工事 3 内外装工事(防水、左官 2 演習 1 考査	 施工計画、施工管理、安全衛生管理、工事準備、仮設工事 鉄筋工事、型枠工事、コンクリート工事 木工事 内外装工事(防水、左官、建具、ガラス、内装、設備) 演習 				
		for the mark () / Alan II II m la I)				
使用教材	(第二版)専門士課程 建	樂施工(字芸出版社)				
履修上の 注 意		せや工程・品質・安全等施工	管理を理解する。			
成績評価の 方 法		、テスト、課題レポート他)				

										'	FJX 日 . 2020 千年 万 1 日
学	禾	斗	名	建築大工技能科							
コ	<u> </u>	ス	名								
科	E	1	名	建築法規			科	目	分	類	独自/ 共通
履	修	年	次	2	履修学期	後期	授	業	形	態	講義〉実習/演習
コ、	マ数	女 /	週	1	総授業コマ数	19	単	1	立	数	1
担	当	教	員	佐藤 有紀	実務経験		法性	につ	いて		験。多くの建築物の確 fする業務を行った経験
目	的/	/概	要	建築基準法とその 法令集の構成を理		て、条文の解釈・考え 習得する。	方や	·規)	定内	容に	こついて学ぶ。また、
到	達	目	標	・単体規定につい 日本全国どこて ・集団規定につい	て でも建物に必要な て	ら法律に馴染む。 構造、安全、避難、設 築の用途、形態、規模					
目	標	資	格	二級建築士、2級加	 也工管理技士						
前	提	知	識	特になし							
授	業	計	画	5 総則(目的、月 5 単体規定(構)	築基準法と関係 用語の定義、設計 造耐力、耐火防	業 内 容 法令) けと監理、手続き) 火、室内環境、避難) 川限、容積・建ペい率、	高さ	新門	艮、[∃影	規制、防火地域)
			計	19							
使	用	教	材	超入門建築基準法(市ヶ谷出版社) 基本建築基準法関係法令集 (建築資料研究社)							
履注	修	上	の意	・建築基準法の法令集の使い方に慣れまた引き方に慣れ「集団規定」「単体規定」「関係法令」 に関して理解する。							
成の	績力		価法	考查点50%(半期 課題点20%(学習	授業に取り組む姿勢30% 考査点50%(半期期末考査、場合により中間考査も実施) 課題点20%(学習項目毎の小テスト、課題レポート他) などを中心に総合的に評価する。						